

## ～第46回卒業証書授与式～

卒業証書授与式は、多くの来賓と保護者のご臨席をいただき、31名の卒業生は笑顔

と明るくさわやかな表情で出中を巣立っていきました。一人一人が自分の人生を光り輝くものにしてほしいと願っています。なお、7・8日と県立高校の入学考査日となっています。それぞれ自分の選んだ高校に挑戦します。1日目が学力試験、2日目が学校によって異なりますが、小論文や面接などが実施されます。各自が実力を発揮し、無事合格することを祈っています。

### 答 辞（一部抜粋） 卒業生代表 \_\_\_\_\_ さん



三年前の春、真新しい大きめの制服に身を包み、これから始まる中学校生活に期待と不安を膨らませながら入学したことを今でも鮮明に覚えています。あれから、もう三年も経ったのだと思うと、本当に月日の流れが早いと感じます。たった三年間の中学校生活でしたが、色々なことがあった中身の濃い三年間でした。特に行事前は、「成功させよう」という強く熱い気持ちをもって、必死に努力したことがとても印象に残っています。一つの目標に向かって、悩んだり、苦しんだりしながらも、仲間と共に全力で駆け抜け、喜びを分かち合い、笑顔でいられた日々は絶対忘れられない、忘れたくない思い出です。この学校で数多くの貴重な経験をし、そこから学んできたことは、一生心に残っているでしょう。

在校生のみなさん、行事や生徒会活動などで私たちを支え、最後までついてきてくれてありがとうございました。私たちは頼りになる、手本となる先輩だったのでしょうか。みなさんの協力がなければ、できていなかったことも多かったと思います。全校を引っ張っていくリーダーがみなさんに助けられてばかりでしたが、それでも私たちについてくれたみなさんのような後輩に出会えたことを誇りに思います。そして、そんなみなさんならこれからどんな困難があっても、乗り越えていけると信じています。よりよい出中を目指し、仲間と協力して頑張ってください。みなさんの活躍を期待しています。

保護者の皆様、今まで私たちを支え、温かく見守ってくださり、ありがとうございました。深い愛情に包まれながら、私たちは安心して生活を送ることができました。これからは少しずつでもその恩返しができるように努力します。

ご来賓の皆様、また、校長先生をはじめとする先生方、私は皆様からいただいた、時にやさしく、時に厳しい温かいお言葉の数々のおかげで、自分自身を成長させることができました。心より感謝申し上げます。

そして、三年生のみなさん、ここで私たちが過ごせる時間はもう間もなく終わってしまいます。中学校生活の三年間というのは、長い人生の中ではほんの一瞬のようなものですが、その一瞬は私にとって、かけがえのない宝物です。私たち三年生は、先生方から「もっと自分を表現しろ」とか「殻を破って本当の自分になるんだ」とよく言われるような学年で、消極的なところを指摘されることが多かったです。しかし、全体としてではなく、個々へと視点を変えると、個性豊かで、ずっと一緒にいても飽きないような愉快的な仲間たちです。どんなときも楽しく、笑い合う私たちばかりが思い出されるような日々を過ごしてきたんだと今改



めて思います。そして、仲間が落ち込んでいる時、悲しみを笑いにかえて吹き飛ばそうとしてくれるみんなと共に歩んできたからこそ、つらいとき、苦しいときに「あきらめないで続けよう」「前向きでいよう」と思うことができました。みんなのおかげで今の自分が形作られていると強く思います。

私たちは沢山のの人に支えてもらいながら、一歩ずつ踏み出し、ここまでくることができました。これから、自分の手で自分の未来をつかみ取れるよう少しずつでも成長し続けたいと思います

最後に、本日、私たちの卒業式のためにお集まりくださった全ての皆様のご健康とこの伝統ある出雲崎中学校のますますの発展をお祈り申し上げ答辞いたします。



### 式辞（一部抜粋） 校長 中林左知男

みなさんの素晴らしさは、日常生活がしっかりとしていることです。朝早く登校してコンピュータ室で生徒総会や委員会の企画書を作成したり、奉仕委員会が玄関掃除を、生活委員会が挨拶運動を行っていました。日常活動には3年生が中心となって当たり前のように活動していました。その誠実な姿は、後輩の良き手本であり、あるべき姿として焼き付いています。ステージ左に掲示されている「わたしたち出中生をみてください」をまさに実践してくれたと思っています。

1年生の地域学習では小木ノ城址に出かけたり、3年生の修学旅行では、出雲崎の特産品を大阪で販売する商人体験を行い、地域を大事にした新たな取組に挑戦してくれました。昨年から続けている「全校話し合い活動」では、あまり話したことの無い後輩とペアになって話す場面でも、後輩が話しやすいように、上手くリードしていました。「〇〇先輩のようにうまくリードできるようになりたい」と多くの後輩が先輩に憧れています。相手を思いやり、気遣い、明るくさわやかな言動ができる人が多くいます。この素晴らしさも是非これからも持ち続けてください。

さて、そんな皆さんに伝えたいことは、平昌五輪で金メダリストとなった小平奈緒選手の言葉「**与えられた物は有限、求める物は無限**」という言葉です。つまり「与えられた物は所詮与えられたものに過ぎず、自分から求めていく生き方をすると、多くのものが得られると共に、そこに無限の価値がある」ということです。今、世の中は不安定であり、政治や経済も決して安定していません。未来が必ずしも明るいとは限りません。しかし、だからこそ「自分がどう生きるか」が大切となってきます。義務教育の間は、与えられることが多かったと思います。しかし、これからは、自ら求め、積極的に自分の目指す目標に向かって努力してください。その生き方からこそ無限の可能性が広がるのです。小平選手は、念願の金メダルを手にしましたが「金メダルをもらうのは名誉なことですが、これからどういう人生を生きていくかが大事になると思います。」と言っています。目標を達成しても、さらにまた次の目標に向けて生きていく、そんな小平選手のように、求め続ける人生を皆さんには歩んでほしいと思います。自ら求め、切り拓いていく人生を期待しています。（後略）

### 話し合い活動



「パイプライン」という協力のゲームを行いました。一人一人が、50cmぐらいのパイプを持ち、それを繋げてビー玉を転がし、目標地点まで運ぶゲームです。これが上手く運ばせん。ビー玉を落としたり、スタート地点からやり直しです。最初はビー玉を落とす音ばかりが聞こえていました。体育館の端から端までなので20mぐらいなのですが、なかなか成功しません。「ゆっくり、ゆっくり」「あまり傾けないで!」と声をかけ合いながら協力していました。21日に行ったのですが、あまりにできないため、28日に再度行いました。このような活動を通して、団結するコツや協力する楽しさを感じてくれています。これからも活動を通して、協働する力やコミュニケーション能力を育てていきたいと思っています。